



令和3年8月31日発行
第7号
岡山市教育委員会
生涯学習課公民館振興室
(岡山市北区幸町 10-16,
234-6015)
公民館振興室 HP  

学びを止めない～オンラインで広げる地域の輪～

コロナ禍ではありますが、公民館ではオンラインを活用して学びを止めない工夫を行っています。

オンラインによる小学生の公民館見学 ～万富公民館～

コロナ禍の終息が見えない中、これまでの地域住民同士の交流が途切れたり、住民の学習機会が減少したりする恐れがあります。公民館が積極的にICTを活用した学習機会を提供し、地域にも定着させていくことで、人と人が実際に会わなくても地域に交流が広がり、つながりが生まれるようにしたいと考えています。

7月1日、コロナ禍で現地で公民館見学が困難な千種小学校3年生を対象にオンラインによる公民館の施設案内を行いました。



当日は、瀬戸公民館の職員の協力の下、館内をカメラを持って回り、活動中のクラブ講座にインタビューを行いました。

また“万富公民館クイズ”も行い、公民館について楽しく学んでもらいました。児童からは、公民館に対するたくさんの質問が出たほか、クラブ講座が長年続いていることを知って驚きの声が上がっていました。

初めて行うオンライン授業でしたが、とても好評だったようです。



オンラインを併用して防災会議 ～足守公民館～

足守公民館では、地域の方々と地域の防災・減災について話し合い、活動する「足守中学校区防災会議」を毎月1回行っています。会議は、メンバーに医療・福祉関係の仕事で来館しにくい方もいることから、ほぼ毎回オンラインと会場を併用したハイブリッドで行っています。

8月21日の会では、15日に足守中学校体育館に避難された方(オンライン参加)から、避難所の写真とあわせて報告がありました。オンラインで参加される人には事前にレジメなど送りますが、その場の話によって急遽資料が出てきた場合でも画面共有できるため、お互いにストレスなく話を進めること

ができとても助かっています。

また、オンライン参加された方から出ていた、会場の人の顔がよく見えない問題も、タブレットをサブカメラにすることで解消でき、いつもにも増して話し合いが弾んでいたようでした。

会では先日「足守中学校区防災会議ニュース③」を作成・発行しましたが、その時の話し合いでもオンラインが活躍しています。今後は、この会だけでなく、様々な場面で活用し、地域の方々とつながっていけたらと思っています。



公民館の実践紹介⑬ 東山公民館

発達障がいに関する理解と支援の輪を広げたい

「ひまわりサポーターズクラブ」悩みを分かち合う仲間と共に

岡山市立公民館基本方針の主要重点分野の一つに、「子育て（子育て・家庭教育と青少年健全育成の支援）」があります。子育てについて学んだり悩みを語り合ったりする場、親子で交流できる場づくりを進めるとともに、発達障がいがある子どもとその保護者のための居場所づくりや学び合いの場づくりも進めることを謳っています。

東山公民館では、平成23年度に障がいの有無にかかわらず、子どもたちの笑顔があふれる地域にしたいという思いから「ひまわりサポーターズクラブ」を発足し今に至っています。

同じ悩みを抱えるからこそ支え合うことができる

この講座は、日ごろの子育てや学校などでの悩みを語り合う定例会を月に一回開催していますが、そこでは次回に行われる学習会について、行政からの情報や同じ活動をしている市内の支援グループとの交流会で話し合われた情報の交換などを行っています。また、年間通して学習会を行っており、令和2年度は「特性に合わせたお片付け」、仕事をしているお母さんのために「夜のひまサポ」と称して「家庭学習支援について」と、長年療育に携わり様々な子どもたちとその保護者に関わってこられた「にじいろスクエアせとうち」の黒田先生を囲んで「座談会」を行いました。

保護者の方は、「子どもの目線で片付けを考えることが大切、これまでは自分の考えを押し付けていた。」「ほんの少し片付けのポイントをつかむだけで、日々の親子関係が変化しそう。」などの声が聞かれました。講演後は参加者同士で情報交換や学校での様子、進学の悩みなどを話し合いました。同じ世代の子どもを抱える保護者だからこそ本音で語り、支え合うことができる大切な時間となりました。

また、子どもたちの達成感や自己肯定感を養うために「夏休み宿題大作戦」を開き、地域の大人に見守られながら学習する姿を親御さんに見ていただき、子どもたちの成長を感じてもらおう機会を作りました。「夜のひまサポ」では、子育ての悩みの相談やひまわりサポーターズクラブの代表を

されているNさんのお子さんから発達障がい当事者からの目線で悩みや家族への思いを話してもらい、保護者として子どもとどう向き合うことが大切かを改めて考える貴重な会となりました。



継続することが力となる

年度末の定例会での事業の振り返りでは、コロナ禍での活動では例年のようなことはできなかったが、継続していくことが大切、また家庭の中だけで悩むのではなく地域の人たちにも発達障がいについて正しい理解を発信していくことが大切ということ話し合いました。

令和3年度はテーマを前年度に引き続き「生活と食」とし、学習会を進めています。発達障がいを持つことで生じる食への偏りの理解のために「なぜ偏食をするのか？」について学び、子育てに悩みを持つ親のために、改めて「発達障がいとは」と題して基本的な知識を学べる機会を作っていく予定です。

発達障がいの理解を地域へ広げる第一歩

地域へ活動を広げたい思いを持ってこれまでの取り組みを地域の民生委員児童委員会の代表にお話ししたところ、「発達障がいについては以前から関心を持っていた。地域の方に発達障がいのことをもっと知ってもらうために、民生委員児童委員会の定例会に来て紹介してほしい。」とのお話をいただくことができました。今、会の代表のNさんがゲストで参加し、ひまわりサポーターズクラブの活動紹介をすることが進められています。

子育てに悩む保護者の思いを地域へ伝えていく取り組みの第一歩となりました。これからも公民館は様々な人と人をつなぎ、学び合い交流できる場にしていきたいと思ひます。

公民館の実践紹介⑭ **山南公民館**

「防災」を「ひとつ」から「じぶんごと」にするために

地域の状況

山南中学校区は、人口7,625人、3,385世帯の地域で(令和3年3月末)、4つの小学校区があります。江戸時代にできた干拓地で、西は吉井川、南は瀬戸内海に面し、山もあるため、災害に強い地域とは言えません。各小学校区には自主防災会が組織され、防災訓練等の防災活動が行われていましたが、コロナ禍もあり、なかなか思うような活動ができていない状況です。

令和2年度の様子から

令和2年度、公民館では防災の取り組みとして、小学生対象の夏休み講座(コロナ禍で中止)や高齢者対象の居場所サロンで防災学習を行い、9月には非常持出品を展示しました。実際に展示を見た人からは「用意せんといけんのよなあ」「まだしとらんわ」という声が多く、準備しているという人は数名しかいません。災害への備えがまだどこか「ひとつ」であり、これを「じぶんごと」にしていくための学びが必要だと感じました。また、地域サロンへの出前講座、地元町内会防災訓練での講義、学童保育への出前講座(コロナ禍で中止)等、公民館への依頼はあるものの、それぞれが単発で開催されているように感じられました。

防災意識を高め年間とおした取り組みに

令和3年度の取り組みについては、まず個々の防災意識を高めること、そして年間を通して防災を考える機会を作ることが、自主防災会活性化に向け公民館にできる支援の第一歩と考えました。

4月は、大人気のスマホ講座に防災の視点を入れて計画しました。この講座はもともとアプリのインストール方法を学ぶ内容ですが、アプリを防災関連にするよう講師に交渉し、職員からも具体的なアプリを提示しました。講師にとっては初めて取り組む内容だったようですが、今後、他会場の講習で参考になると喜ばれました。講座生も防災アプリを自分のスマホにインストールしたので、いざという時にはすぐに使うことができます。既存の講座内容に防災の視点を取り入れることで、学びの機会を広げることができました。

同様の取り組みとして、5月のごみ減量・リサイクル推進週間事業、6月のさんかくウィーク公民館行事にも防災の視点を取り入れることにしました。5月は、災害時のごみの出し方や、平成30

年7月豪雨時の様子など実際のごみ収集の様子を聞いて、何ができるか考える講座を計画(コロナ禍で延期)。6月は、防災・減災スタンプラリーを通して自分自身の防災タイプを知り、いざという時の行動を考える講座を計画。この講座もコロナ禍で8月に延期になったので小学生が参加できるように変更しました。また、小学生対象の夏休み講座と高齢者対象の居場所サロンでも防災学習を取り入れ、ロビーでの非常持出品の展示も予定しています。



さらに7月からは「さんなん防災会議」として地域で防災を考える講座を定期的に開催することにしました。7月の講師から提案があり、各小学校区で防災の取り組みをしている人と一緒に打合せを行ったところ、その過程ではっきりしたのは、お互いの活動についてあまり知らないということです。けれど、活動している人同士なので話は早く、脱線しながらも盛り上がった打合せになり、講座が楽しみになりました。

打合せ中に話題になったのは、「地域の人にどう伝えるか」でした。打ち合わせに来ているメンバーは、防災についてある程度理解していて危機意識も高いけれど、ここにいない人達にこそ、学んで、理解し、行動に移してほしい、ということです。「私らはいいんよ、一応わかっとなるから。いまここにおらん人が大事なんよ。防災にあまり関心のない人に理解してもらうんが大変なんよ」。地域の人達へどう伝えたらいいか、それが共通する悩みでした。公民館が取り組む内容として、個々の防災意識を高めたり、継続的に防災を考える機会を作ったりすることが、まさに求められていると確信できました。

防災を「ひとつ」から「じぶんごと」へ

7月から始まる防災講座を中心に、様々な機会を捉えて防災の取り組みを行い、年間を通して防災を意識できるよう計画したいと考えています。講座に参加して、まずは「ひとつ」から「じぶんごと」へ。自分のこととして考え地域で行動するようになると興味関心が高まり、また講座へ参加して学ぶ、という上向きの学びのループができるよう、機会を整えていきたいと考えています。

夏休みの公民館は子どもたちの「笑顔」がいっぱい



コロナ禍の下ではありましたが、夏休みの公民館では感染症対策を行いながら子どもたちがはじめてのことに挑戦したり、さまざまなことを体験しました。



北公民館

クラブ生と太極拳に挑戦！ 楽しい防災基地づくり

北公民館では、8月5日に「サマーキッズチャレンジ2021」を開催しました。楊名時健康太極拳クラブの皆さんに協力をいただき、3人の小学生が太極拳に挑戦しました。呼吸の仕方から教えていただき、クラブ生の皆さんと一緒に太極拳をしました。

日頃とは違った動きで難しかったようですが、呼吸法などは、イライラしたり、勉強前に集中したいときによいそうなので家でも取り入れられそうです。



8月7日に小学生対象の防災講座「楽しい防災基地づくり」を開催しました。地域のボランティアスタッフ「SDGs 11

岡北」メンバーの協力で、缶詰を使ったランブづくり、子ども向けの非常持ち出し袋の説明、段ボールを使った防災基地づくりを行いました。防災基地は家族ごとに作り、それぞれ個性的な基地ができあがりました。



子どもたちからは「おじちゃんたちと話したり、一緒に作れてよかった」「大きくて良さそうなのができてうれしかった」「いろんな人とふれあえて楽しい思い出がくれた」といった感想が寄せられました。

南公民館では、7月29日に夏休みフリー塾2021「夏休みの習字の宿題を終わらせよう」を実施しました。芳泉高校書道部の生徒の皆さんが、小学生の宿題「習字」のお手本を書いたり、書き方のアドバイスをしてくれました。1年生から6年生まで、それぞれの課題を持ってきて、高校生から筆の運び方、とめ・はね・はらい・字の形などをアドバイスしてもらいました。

小学生からは「お姉さんがやさしく教えてくれて、じょうずに書けた」、高校生からは「教えている間にどんどん上達して嬉しくなった」といった感想が聞かれました。



南公民館

夏休みフリー塾2021 高校生を講師に習字やダンス



8月5日には、同じく夏休みフリー塾2021「ダンスでMake you happy! コロナでなくしちゃった笑顔もダンスも取り戻そう」を午前・午後の2部制で実施しました。

小学生は芳泉高校のダンス部の生徒の皆さんからダンスを教えてもらいました。ひとつずつゆっくり振り付けの確認をして通しでできるようになったら音楽に合わせて踊りました。最初は緊張気味だった子どもたちもだんだん打ち解けていき講座が終わるころにはテンポの速い曲もしっかり踊れるようになりました。キラのあるダンス、アイドルみたいなかわいいダンスで、みんなすてきな笑顔になっていました。